

平成 30 年 12 月 13 日

東北経済産業局

東北経済産業局が選んだ「平成 30 年東北経済・産業の 10 大ニュース」

東北経済産業局では、毎年1年を振り返り、東北の経済・産業に関わる印象的な出来事、支援内容等を取りまとめてお知らせをしております。
人手不足や、人口減少といった課題が話題にあがった一方で、大型投資やインバウンドなど今後も引き続き経済効果が期待できるニュースもありました。さらに東北ゆかりのスポーツ選手の活躍が東北地域を明るく盛り上げた1年でもありました。そうしたニュースの中から、職員が投票により、印象的な出来事として下記を選定しました。

平成 30 年東北経済・産業の 10 大ニュース

1. 羽生結弦選手、金足農業が活躍。スポーツの力が東北経済を後押し。
2. 東北で半導体、自動車関連企業の大型投資が相次ぐ。
3. 東北にもいよいよインバウンドの波。
4. 次世代放射光施設、東北大学に設置決定。
5. 企業の人手不足がますます深刻化。事業承継、生産性向上支援加速の動き。
6. 全国初の「地域未来牽引企業サミット」を会津若松で開催。
7. 仙台市の人口が自然減に。戦後の混乱期除き初めて。
8. ナマハゲなど「来訪神」無形文化遺産に登録。
9. 日本酒品評会の世界大会、東北で開催。
10. 東日本大震災からの復興、着実に進展。福島への復興・再生に向けた動きも本格化。

(詳細は別紙参照)

【選定方法】

当局職員(出向者を含む)から今年の印象的な出来事を募集。33 項目の候補案件に絞り込み、5 日間にわたって職員による投票(職員1人につき 10 項目まで)を行いました。職員 163 名の投票結果です。

(本発表資料のお問い合わせ先)

東北経済産業局総務課広報・情報システム室長 成田 眞

担当者: 安田

電話:022-221-4867(直通)

FAX:022-261-7390

(別紙)

東北経済産業局が選んだ「平成30年東北経済・産業の10大ニュース」

1. 羽生結弦選手、金足農業が活躍。スポーツの力が東北経済を後押し。

羽生結弦選手がオリンピック2連覇を達成し、仙台での凱旋パレードでは10万人が祝福、また金足農業高校は秋田県勢103年ぶりの甲子園準優勝を果たし、東北ゆかりの選手が活躍し、全国に明るい話題を提供した。これらの経済効果は凱旋パレードが18億円(実行委員会)、金足農業がコラボ開発商品の売上なども含め104億円(日銀秋田支店)と試算され、スポーツの力が東北経済を後押しした。

7月には、ラグビーワールドカップの会場となる釜石鶴住居復興スタジアムが完成、来年の開催に向け、機運が高まっている。

2. 東北で半導体、自動車関連企業の大型投資が相次ぐ。

北上の東芝メモリが新工場着工、トヨタ東日本が工場を宮城岩手に集約、東京エレクトロンが大和、奥州で工場の拡張を発表するなど、半導体、自動車関連企業の大型投資が相次いだ。関連企業の集積も加速し、新たなステージの幕開けを予感させる1年となった。

3. 東北にもいよいよインバウンドの波。

東北にもインバウンドの波がやってきた。海外との定期路線の拡大や各地への大型クルーズ船の寄港が話題となり、訪日外国人数は過去最多を記録。仙台空港では主にLCC向けとなる旅客搭乗施設「ピア棟」が完成するなど各地で受け入れ体制も整いつつあり、今後の更なるインバウンド増加が期待される。

4. 次世代放射光施設、東北大学に設置決定。

文部科学省は国内初となる「次世代放射光施設」を東北大学青葉山新キャンパスに設置することを発表。

「強力な光を使った巨大な顕微鏡」である同施設では物質構造の詳細な分析が可能。経済効果が1.9兆円との試算(東北経済連合会)もあり、東北経済への好影響が期待される。

また、北上地域への「国際リニアコライダー計画(ILC)」の誘致実現への機運も一層高まりを見せており、これらの実現により、東北が、世界が注目する最先端技術発信地域となることが期待される。

5. 企業の人手不足がますます深刻化。事業承継、生産性向上支援加速の動き。

少子高齢化や東日本大震災の影響等により、東北では人手不足、後継者不足がますます深刻化し、有効求人倍率は過去最高の1.54倍を記録。人手不足解消に向け、多様な人材(女性、高齢者、外国人等)の活用や、生産性の向上、事業承継を支援する取組が始められている。

6. 全国初の「地域未来牽引企業サミット」を会津若松で開催。

経済産業省は、地域経済牽引事業の担い手の候補となる「地域未来牽引企業」を全国で2,148社、東北で275社選定。4月には会津若松で全国初となる『地域未来牽引企業サミット』を開催し、全国から約450社の企業のトップら、約1,000名が参加した。9月には東北企業を中心に80社が参加した経営者交流会を開催。企業同士の交流を通じ新たなビジネスの契機となることが期待される。

7. 仙台市の人口が自然減に。戦後の混乱期除き初めて。

東北最大の人口を抱える仙台市が、2017年の人口動態統計で出生数から死亡数を引いた自然増加数が96人のマイナスとなったことが明らかに。自然減になったのは戦後の混乱期を除いて初めてのことで、

8. ナマハゲなど「来訪神」無形文化遺産に登録。

ユネスコは、男鹿のナマハゲ(男鹿)、吉浜のスネカ(大船渡)、米川の水かぶり(登米)、遊佐の小正月行事(遊佐)など10行事で構成する「来訪神:仮面・仮装の神々」を無形文化遺産に登録決定。登録を機に、文化に対する理解が深まり、観光客の増加、地域資源として地域の活力向上につながることを期待される。

9. 日本酒品評会の世界大会、東北で開催。

世界最大級のワイン品評会「IWC(インターナショナル・ワイン・チャレンジ)」のSAKE部門が5月に山形県で開催され、世界中の日本酒ファンの注目を集めた。また、チャンピオン・サケには福島県二本松市奥の松酒造(株)の「奥の松 あだたら吟醸」が選ばれた。これで4年連続チャンピオン・サケは東北から選出され、日本酒産地としての東北を世界に印象づける結果となった。

10. 東日本大震災からの復興、着実に進展。福島の復興・再生に向けた動きも本格化。

三陸沿岸道路などのインフラ整備、地域の賑わいの中心となる商業施設の整備が進展。8月には昨年オープンした「南三陸町さんさん商店街」の来場者数が100万人を突破するなど、東日本大震災からの復興は着実に進展。

南相馬市では7月に「福島ロボットテストフィールド」が一部開所、浪江町では8月に世界最大級の再生可能エネルギー由来の水素製造設備の建設が着工されるなど、福島の復興・再生に向けた動きも本格化している。

また、震災後に川内村に立地した工場で生産された蓄光磁器(電気なしで高い発光性能を長く保持)が、タイ洞窟のサッカー少年の救出活動に活用され、全員生還に貢献したとして大きな話題となった。